

「くっ……！」

（強力な魔術で拘束されて…身動きがとれない…っ！）



闇の蠢く者達は既にエ○デルガルトを母体とし

強靱な子供を作る計画を実行していた。

今回、更に生産性を上げる為に

新たな母体としてラ○イスラヴァが選ばれる事となった。



「イ○ニアス9世、まさか貴方が生きていたなんて……つ  
と、とにかくまずはこの様な事はおやめ下さいっ！  
エ○デルガルト様の近衛兵長である私が  
陛下の父であり前皇帝である貴方とこの様な事を  
していると知られたら申し訳が立ちませんっ……！」

「その様な心配は無用だ……  
私が生きている事もこの様な行いを  
している事も全てエルは周知の事実……」

「そ、そんなっ……！」

「すまないが、観念してくれ……」

「いくら前皇帝のご指示であってもそれは容認出来ませんっ！」





「言い訳にしかならんが、私も奴らに逆らう事が出来ん…  
儂は奴らに差し出された女を犯すしかないのだ…  
例えそれが我が娘であろうともな…」

「!? ま、まさか…」

既にエ○デルガルト様ともっ!?

そなたを孕ませる…

それが奴らの望みだ…

受精するまではどんな事であろうとも

そなたを徹底的に犯す…覚悟してくれ…

い、嫌っ…やめて下さいっ! 私には婚約者が…っ!」

本当にすまない…せめてこの性交の一度きりで終わるよう

確実に妊娠させてみせる…精子は十分に溜まっている…

始めから全力で…激しくいくぞ…っ」





「んっ!ぐっ!お、おやめになって下さいっ!!!」

こ、この様な愚行っ…闇〇蠢く者達の言葉等に耳を貸してはいけませんっ!

「それは無理なのだ…っ、もう儂にはこうする事しか出来ぬのだっ…!!」

て、帝国の…前皇帝である貴方が…屈してはなりませんっ…!!

もうよい…諦めるのだ…

さあ、その身を儂に

委ねるのだ…っ

快樂を得る事で妊娠の

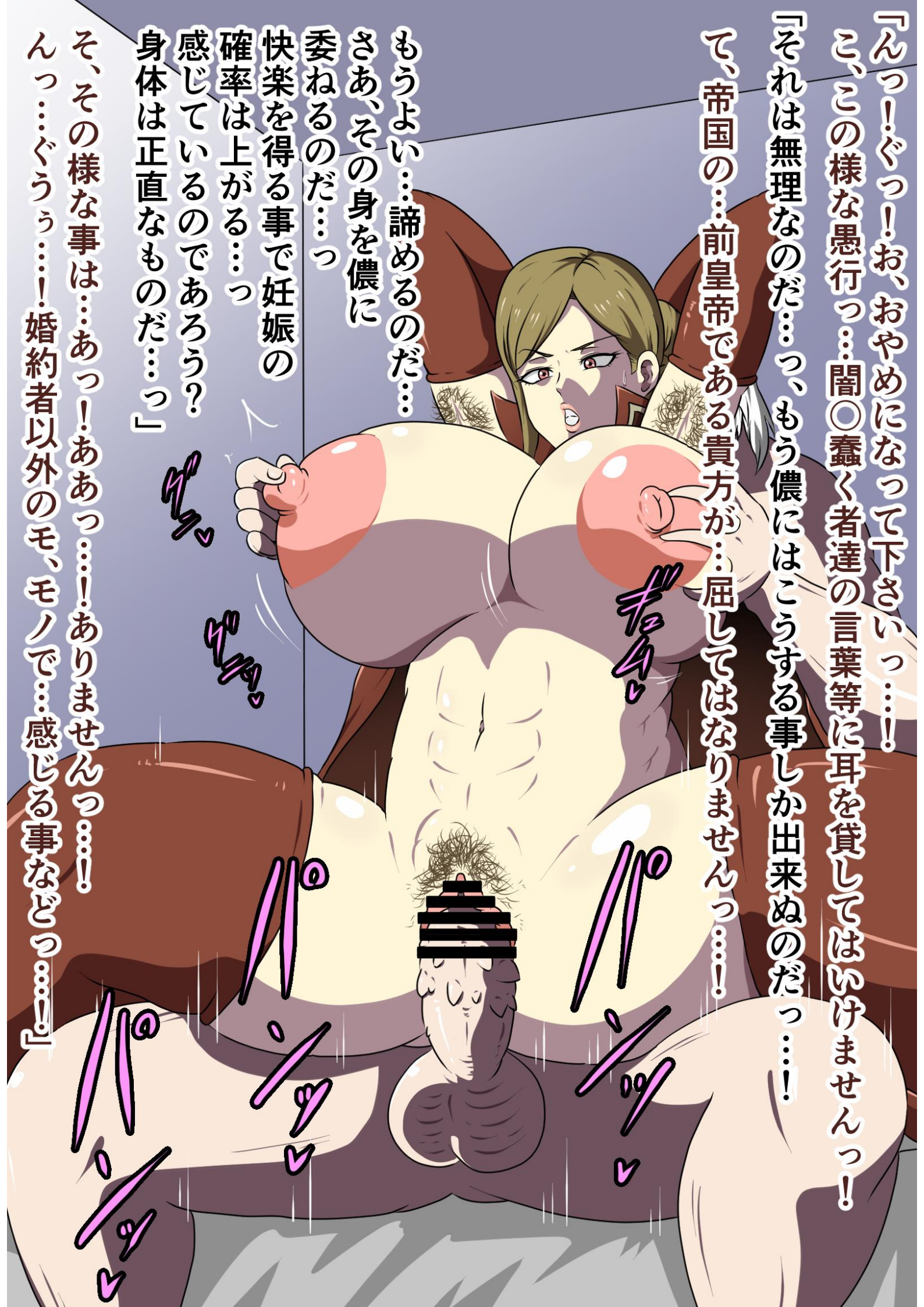
確率は上がる…っ

感じているのであるろう?

身体は正直なものだ…っ」

そ、その様な事は…あっ!ああっ…!ありませんっ…!!

んっ…ぐうう…!婚約者以外のモ、モノで…感じる事などっ…!!」





「意地を張る事はない…僕の男根は奴らによってどんな女も堕ちる  
悪魔の性器と化した…これに犯されて堕ちぬ女はいない…っ！」

「んっ！んんっ…！  
ぐっ…ぐふっ…！」

素直になるのだ…

我慢すればそれだけ  
長引くだけだ…っ！

んっ！ぐうっ…！

分かる…感じるぞ…っ

言葉とは裏腹にそなたの膣内は僕の精液をねだる様に  
蠢いている…本能では欲している、射精をして欲しいとっ…！

んぐっ！そ、そんな事…あ、あるわけっ…んっ！んんっ！

では、イクぞ…っ！そなたの膣内に注いでやるぞっ…！

だ、駄目っ！そ、それだけはっ…おやめ下さいっ…！」





「おっ！おおおっ……！」

イ、イクっ……！出るぞおっ……！」

おっ

おっ

「んっ……おっ♡

おおっ……♡

来るっ……流れて来てるっ……♡

イ○ニアス9世のっ……

前皇帝の濃厚精液っ、来るうっ♡」





「はあ…はあ…本当に中に…あの人以上の精液を…出されてしまった…」

「あ、ああ…だが、残念ながらまだ受精はしていない様だ…  
はあはあ…儂には分かる…」

そ、そんな…それじゃあ…?

んんん

ああ

先に言ったであろう

はあ…はあ…受精するまで

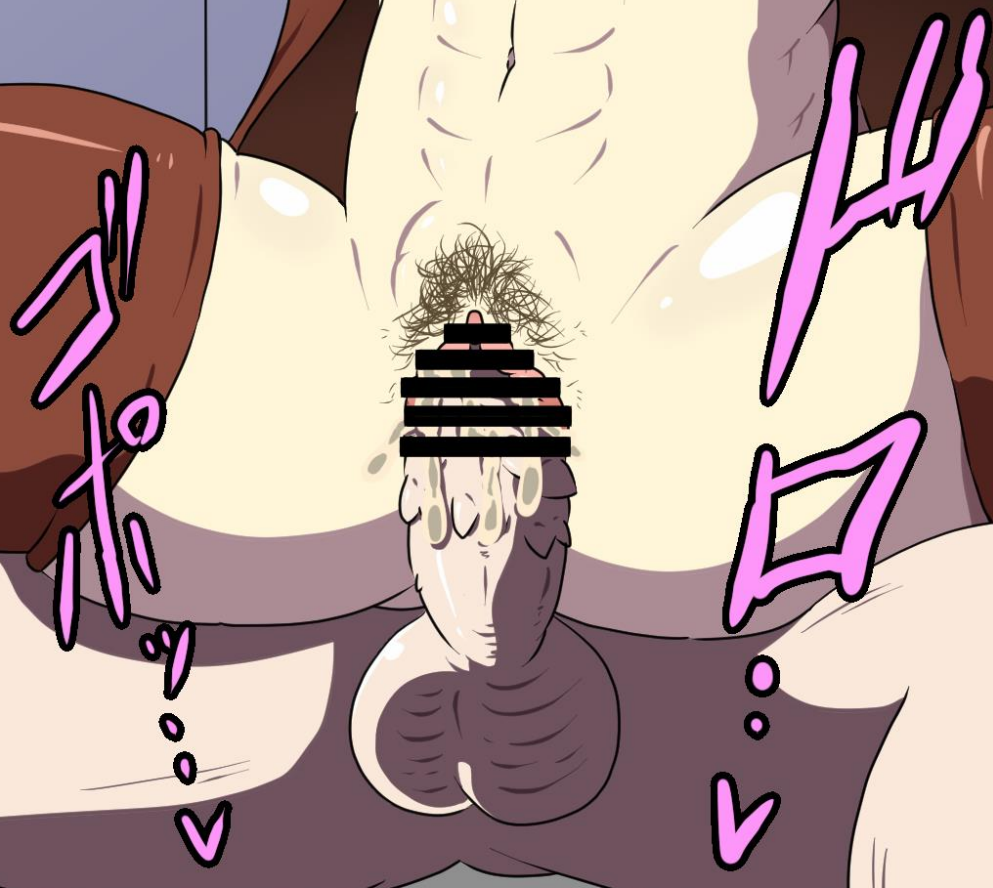
徹底的に犯すと…

悪いが続けるぞ…

い、嫌あ…これ以上はもう…無理よ…

はあはあ…次で決めてみせる…では、いくぞっ…!」

本当にもう無理っ…!お、お願いっ…やめてっ…!」





「ふんっ…!ふんっ…!」

「い、嫌あつ…♡」

もうやめてえっ…♡

今日の為に精液を溜めてきたからな…  
すぐに出そうだっ…!

あんっ♡ああっ♡

だ、駄目え…っ♡もう中に出さないでえっ♡」

おっ、おお…っ!イ、イク…っ!





「おっ!

おおおっ……!

んんんん

んんんんんんんん  
んんんんんんんん

「ああんっ♡」

さあイケっ……!

俺の子を孕むのだっ!





「はあ…はあ…つ、強情なマ○コだ…  
はあはあ…まだ受精しないのか…」

「ほ、本当に…」

も、もう…無理…

これ以上は…もう…

正気を失ってしまおう…っ

それぐらいでなければ妊娠なぞしないぞ…

よいか、本当に次で決める…残った力を振り絞って…

全てをそなたにぶつけるぞ…っ!」

そ、そんな…あれ以上の動きなんて…無理に決まってるわ…っ」





「ふんっ…!ふんっ…!もつとだっ…もつと激しく動くぞっ…!」

「あっ♡あんっ♡さ、さつきより…激しいっ♡  
その体で…これ程の動きが出来るなんてっ♡」

あっ♡

んっ♡

ラ○イスラヴァよっ…!  
もつと感じるんだっ…!  
儂のチ○ポに意識を  
集中させるのだった…!

あっ♡んあっ♡チ○ポ凄いつ♡ズンズン来るっ♡  
デカチ○ポが私のマ○コを容赦なく犯して来るうっ♡

さあイケっ!孕めっラ○イスラヴァ!儂の子を孕むのだった…!

んあっ♡イクっイクっ♡マ○コイクっ♡隠居チ○ポにイカされるっ…♡」





「ぐおおおおおつ…!!

僕の精液っ全部受け取れええっ…!!」

「ああんっ♡

また来るうっ♡

特濃チ○ポザーメン

ドクドク流れて来るううっ♡」





「うう…あはあ…♡」

「はあ…はあ…はあ…つ…よ、よし…今度こそ受精した様だな…」

「はあはあ…つ、お、おめでとうラ○イスラヴァ…」

「はあ…はあ…つ、そなたは妊娠した…」

「はあ…」

「はあ…」

「はあ…」

「はあ…」

「はあはあ…  
そ、そんな…  
妊娠だなんて…  
う、嘘に決まってるわ…」

「妊娠し、形もすっかり変わってしまったマ○コだが…  
これからは婚約者との愛を深めていってくれ…」

「あ、ああ…♡わ、私のマ○コが…ガバガバに…  
ご、ごめんなさい、あなた…も、もう婚約は…無理みたい…」

「グポポ…」

「ホカ…」

「ズル…」

「ズ…」









































